

【研究テーマと本校の課題、今後について】

研究部部長 丹羽はるか

1. はじめに

今回の学習指導要領の改訂では、「生きる力」を児童生徒に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等の学ぶ意識を共有しながら、全ての教科等の目標及び内容を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間力等」の育成をめざす資質・能力の三つの柱で整理された。さらに学習評価の充実について、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け授業改善を行うとともに、評価の場面や方法を工夫し、授業の改善と評価の改善の必要性が挙げられている。児童生徒が主体性を持てる授業を立案することは、重要課題である。

2. 本校の現状と研究テーマ設定について

本校では「研究テーマ」の設定とそれに伴う研究実践の推進が課題であり、令和元年度に研究テーマを「キャリア教育」に設定したが校内での認知度が低く、各学部の授業の一部を研究紀要に紹介しただけで終了した。令和2年度には課題であった研究テーマに沿った研究実践をどのように推進していくかを研究部内で検討をした。研究テーマを何に設定するかは、研究部内だけでなく、管理職とも話し合いを進め、最終的に「支援学校における児童生徒の主体性を引き出す授業づくり」となり、その成果を研究紀要にWeb掲載することを決定した。

3. 研究テーマ設定理由について

今回の研究テーマ設定理由は以下の通りである。

- ①「はじめに」で述べたように、児童生徒が主体性を持てる授業を立案することは重要課題であること。
- ②研究テーマに基づく研究実践を本格的にするにあたり、本校教員が普段から行っている授業を「主体性」という観点から見直すきっかけが必要であること。

4. 進め方についての注意点について

研究実践を進めるにあたり、次のことを大切にしたい。

- ①研究実践については、発表者や各学部の実態に合わせて行うこと。
- ②今後も継続していけること。

5. 今後の生野支援学校について

実践をまとめ書面に残していくことは、今までの授業実践を自分自身で振り返るきっかけとなり、また本校の実践例として、他の教員へも広く継承していくことができる。本校は、今までも多くのアイデアに富んだ授業実践が行われてきたが、授業を公開し研究協議をしたり、その結果を书面化し広く発信したりすることが課題であった。これを機会に授業研究として多くの教員に授業に関する意見や感想を聞き、振り返りを行ったり、成果を他学部と共有したり、教材や教授法を記録として残すことに力をいれていきたい。